

立川市自転車活用推進計画骨子(案)

1 立川市の特徴

人口	2019年:91,270世帯/183,822人 2013年から2019年にかけて5415人増加しているが、今後は人口減少が見込まれる。 65歳以上人口割合は2019年4月時点で24.3%で、東京都(2019年9月時点)の23.3%よりは高いが、東京都市町村の平均(2019年9月時点)の25.5%よりは低い。
地勢	自転車が利用しやすい平坦な地形であることから、多様な自転車利用が活発になされている。
公共交通	JR中央線、青梅線、南武線、西武拝島線、多摩モノレール、立川バス、くるりんバス 鉄道・モノレール路線が東西・南北方向に整備されている。
立川駅周辺	大型商業施設が立地、交通の要衝 2020年4月には北口に新街区が竣工予定で、更なる賑わいの創出が見込まれる。
西武線沿線	住宅系土地利用と農用地が混在。 各駅には、近隣他市からの乗り入れ割合が大きい。(武蔵砂川駅周辺においては、定期利用者の約40%が武蔵村山市民)
自転車にかかる特徴	競輪場を有し、自転車スポーツが盛んに行われている。 また、多摩川に整備されているサイクリングロード(たまりバー50キロ)が南部に位置し、旧多摩川小にサイクルステーションとしての役割を持たせている。

2 自転車利用特性

メリット	自転車は日常生活をおくる上で、経済的で手軽に使える最も身近な移動手段であるとともに、健康づくりや災害時の機動性等、新たなメリットが注目されている。
課題	事故による高額賠償のリスクや、安全利用に関するルールの周知、利用環境等について、課題も残されている。

3 自転車の位置づけ

自転車を、交通体系の中で重要な役割を果たす交通手段の一つであり、身近なレジャーツールの一つと位置づける。

4 自転車をとりまく現状及び課題

データ	考察・課題																								
<p><立川市内の交通事故件数> 平成29年の721件から平成30年は727件に増加。</p> <p><立川市内の自転車事故件数> 平成29年の277件から平成30年は318件に増加。平成27年の222件と比較すると、43%増加している。 また、高齢者による事故の割合が都内全域において平成27年から8%増加している。</p> <p><自転車安全教育受講経験者割合> 47.4%と約半数が安全教育の受講経験があるが、60歳以上の受講経験者の割合は31%と低い。</p> <p><自転車ルール違反者割合> 8.2%で都内平均9%とほぼ同一だが、そのうち高齢者の割合は立川市は5.1%で、都内平均の4.0%と比較して高い。</p> <p><立川北駅前交差点におけるヘルメット着用率(2018年)> 通過台数2,401台に対し、着用者29人で約1.2%。都内平均2.6%と比較して低い状況。</p> <p><自転車保険加入状況> 市外居住者の加入率58%に対し、立川市民の加入率は42%と低い状況。</p>	<p>近年自転車の安全利用に関する教育の拡充を行ってきたが、自転車事故は増加している。 また、年代が上がれば上がるほど自転車安全教育の受講経験者割合が低くなることが判明した。 ルール違反者割合についても、都内平均と比較して立川市では高齢者の割合が高くなっていることから、年代別の自転車安全教育、特に高齢者向けの施策が必要である。</p>																								
<p><走行環境整備> H20～H30の間に12.46kmを整備</p> <p><放置自転車撤去台数> H21年10月の983台をピークに減少し、H30年10月には175台となった。</p> <p><立川駅周辺夜間収容放置状況(10/30時点調査)> ・放置自転車台数 ・駐輪場台数</p> <table border="1"> <tr> <td>18:00</td> <td>337台</td> <td>18:00</td> <td>1,845台</td> </tr> <tr> <td>20:00</td> <td>459台</td> <td>20:00</td> <td>1,330台</td> </tr> </table> <p><自転車等駐車場整備台数> H26年の20,965台から、H31年には20,051台に減少している。</p> <p><思いやりエリア状況(11/7 15時調査)></p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">整備台数</th> <th colspan="2">駐輪台数</th> <th rowspan="2">子供乗せ(思いやりエリア設置施設全体)</th> </tr> <tr> <th>子供乗せ</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>107台</td> <td>68台</td> <td>33台</td> <td>150台</td> </tr> </table>	18:00	337台	18:00	1,845台	20:00	459台	20:00	1,330台	整備台数	駐輪台数		子供乗せ(思いやりエリア設置施設全体)	子供乗せ	その他	107台	68台	33台	150台	<p>ヘルメットを着用する意識が根付いていない。</p> <p>立川市民の加入率に課題がある。2020年4月より東京都の条例で保険加入が義務化されることもあり、加入率を高めていく必要がある。</p> <p>パーキングメーターのある路線の整備方法、近隣市との連続性確保のための調整、計画的な補修</p> <p>撤去台数は減少しているが、依然として夜間の放置自転車台数は多い傾向にある。 18時と20時で比較すると駐輪場の空き台数と反比例していることから、いかにして駐輪場へ誘導するかが課題である。</p>						
18:00	337台	18:00	1,845台																						
20:00	459台	20:00	1,330台																						
整備台数	駐輪台数		子供乗せ(思いやりエリア設置施設全体)																						
	子供乗せ	その他																							
107台	68台	33台	150台																						
<p><レンタサイクル・サイクルシェア利用状況></p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> <tr> <td>高松駅レンタサイクル</td> <td>4,470台</td> <td>4,078台</td> </tr> <tr> <td>T-BIKE</td> <td>1,073台</td> <td>3,213台</td> </tr> <tr> <td>サイクルシェア</td> <td>1台</td> <td>1台</td> </tr> </table> <p><自転車レジャーイベント実施状況></p> <table border="1"> <tr> <th>担当課</th> <th>イベント数</th> <th>参加者数</th> </tr> <tr> <td>事業課</td> <td>3</td> <td>523人</td> </tr> </table> <p>イベント内容:自転車教室、スピードチャレンジ、ワットバイク</p> <p><日頃から運動をしていない市民の割合></p> <table border="1"> <tr> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> <tr> <td>35.5%</td> <td>38.2%</td> <td>36.1%</td> </tr> </table>		H29	H30	高松駅レンタサイクル	4,470台	4,078台	T-BIKE	1,073台	3,213台	サイクルシェア	1台	1台	担当課	イベント数	参加者数	事業課	3	523人	H27	H28	H29	35.5%	38.2%	36.1%	<p>周辺公共施設への交通手段としての高松駅レンタサイクル、昭和記念公園や周辺商業施設への交通手段としてのT-BIKEは、一定の需要の元高い利用率である。一方定額性のサイクルシェアについては依然低い利用率である。</p> <p>競輪場や旧多摩川小という市特有の施設を活用した自転車イベントを今後も継続支援していくことで、自転車の活用推進につなげる必要がある。</p>
	H29	H30																							
高松駅レンタサイクル	4,470台	4,078台																							
T-BIKE	1,073台	3,213台																							
サイクルシェア	1台	1台																							
担当課	イベント数	参加者数																							
事業課	3	523人																							
H27	H28	H29																							
35.5%	38.2%	36.1%																							

安全・安心

利用環境
向上

利用の多
様化と健康

5 目的と基本方針

計画の目的	自転車を取りまく課題の解決と、多様な利用の提案によって自転車の活用を推進し、健康都市への寄与を目指した施策を定める。
計画の位置づけ	平成 27 年には、立川市第3次自転車総合計画を策定し、「自転車をいかしたまちづくり」の実現に向け、交通ルールの遵守やマナーの向上と、歩行者・自転車・自動車が安全かつ安心して利用できる環境の創出に取り組んできた。立川市自転車活用推進計画は、前計画の理念を踏襲しつつ、持ち越された課題や新たな課題への対応と自転車の活用推進にスポットを当てた計画とする。
基本方針	自転車を安全・安心して利用でき、誰もが快適に楽しめるよう、空間・意識・しくみづくりを進める。

6 対応策(施策)

		安全・安心	利用環境向上	利用の多様化と健康
施策		保険加入、年代別安全教育、自転車ルールの周知啓発、災害時利用	放置対策、自転車駐車場整備、走行環境整備、需給コントロール	健康増進、レジャー利用、サイクルスポーツ振興の促進、自転車通勤等の促進
事業内容	空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ゾーン 30</u> や狭さくによる安全対策の実施 ・<u>道路標識、道路標示、信号機の適切な設置・運用</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な走行環境整備 ・<u>走行環境の維持管理、改善</u> ・<u>思いやりエリアの推進</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業、観光関係者等と連携したレンタサイクル・シェアサイクル導入検討 ・<u>サイクル&バスライドの推進</u>
	意識づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保険加入促進 ・<u>ヘルメット着用の広報啓発</u> ・年代別の自転車講習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>クリーンキャンペーンの継続及び内容の見直し</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進の広報啓発 ・<u>自転車通勤の広報啓発</u>
	しくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>災害時の自転車利用に関する協定</u> ・<u>自転車車載制限に関する検討</u> ・<u>通学路合同点検の実施</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率の平準化に関する検討 ・<u>定期利用部分の一時利用者への供用</u> ・<u>新たな管理運営手法の検討</u> ・<u>サイクルシェア・レンタサイクルの継続</u> ・<u>自転車撤去の実施と今後の在り方に関する検討</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部団体等と連携した自転車に関するイベントの開催 ・<u>たちかわ競輪との連携</u> ・<u>立川健康ポイント事業との連携</u> ・<u>自転車マップの作製</u>

※下線部は、新規で記載を検討するもの